

令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立河内中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和7年度「全国学力・学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和7年4月17日(木)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 理科, 児童質問調査)

中学校 第3学年(国語, 数学, 理科, 生徒質問調査)

4 本校の参加状況

① 国語 100 人

② 数学 101 人

③ 理科 100 人

5 留意事項

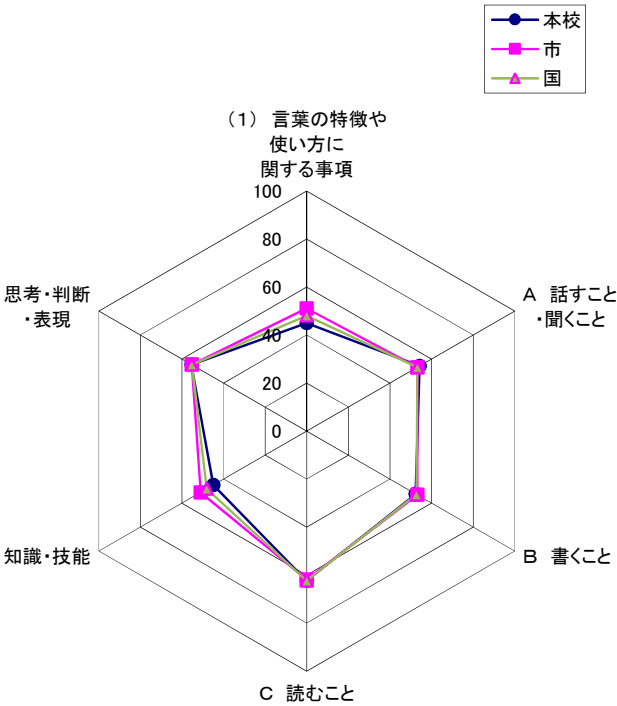
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、数学、理科の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立河内中学校第3学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	45.0	51.1	48.1
	(2) 情報の扱い方に関する事項			
	(3) 我が国の言語文化に関する事項			
	A 話すこと・聞くこと	54.3	53.2	53.2
	B 書くこと	52.4	53.1	52.8
	C 読むこと	62.3	61.8	62.3
観点	知識・技能	45.0	51.1	48.1
	思考・判断・表現	55.5	55.3	55.3
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

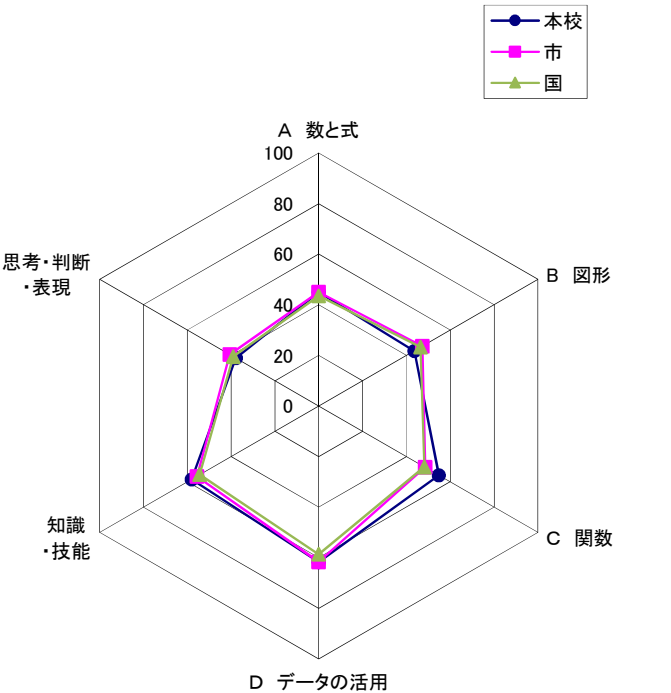
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使い方に関する事項	○事象や行為を表す語彙については正答率が県・全国の平均を上回っており、言葉の意味を理解している生徒は多いと考えられる。 ●県・全国の平均から3ポイント以上下回っており、漢字を適切に使用する力が県・全国に比べ10ポイント以上下回っている。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・漢字の書き取りに力を入れて指導する。定期的に漢字テストを行い、正答率の低いものに関しては言葉の意味や、間違いやすい理由について解説を行う。その際、同音異義語に注意し、文脈に合わせて適切な漢字を用いることができるよう併せて指導を行う。
(2) 情報の扱い方に関する事項		
(3) 我が国の言語文化に関する事項		
A 話すこと・聞くこと	○相手の反応を踏まえながら、自分の考えがわかりやすく伝わるように表現を工夫する問題は、正答率が83%と高かった。 ●資料や機器を用いて自分の考えがわかりやすく伝わるよう助言する問題では正答率が20%と低く、記述に対し苦手意識があると考えられる。	・普段の授業から、話し合い活動で自分の意見を伝えたり、相手の意見を聞いたりする機会を増やす。 ・話し合い活動の中で、話したことを文章にまとめたり、発表したりする活動を設け、話し合いの内容を整理し、文章化することへの抵抗感を減らす。
B 書くこと	○目的に応じて、集めた材料を整理する問題では、正答率が87%と高かった。 ●自分の考えが伝わるよう根拠を明確にして書く問いや、読み手の立場に立って文章を整える力を問う問題への正答率が30%以下と低く、記述力に課題がみられる。	・まずは記述への苦手意識を減らすため、学校行事の感想など、書きやすい内容で文章を書くことから習慣づけを図る。 ・読書量を増やし、正しい書き言葉をインプットできるよう、調べ学習や並行読書などで学校図書館を授業で積極的に活用する。
C 読むこと	○登場人物の人物像を捉える問いでは、正答率が93%と高く、行動や言動の記述から、人物像を捉える力はおおむねついていると考えられる。 ●物語において、作者の工夫の効果について自分の考えを記述する問題では、無解答率が24%と高かった。	・内容読解だけでなく、表現の工夫やその効果にも目を向けられるよう、授業内の活動に取り入れていく。 ・解釈などの解答範囲が広い問いに対し苦手意識がみられるため、初発の感想を友達と共有し合うなど、正誤を気にせずに物語について語れるような場を意識的に設ける。

宇都宮市立河内中学校第3学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【数学】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と式	45.0	45.0	43.5
	B 図形	43.6	47.2	46.5
	C 関数	54.8	48.5	48.2
	D データの活用	61.7	61.6	58.6
観点	知識・技能	58.0	55.6	54.4
	思考・判断・表現	37.8	40.7	39.1
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と式	平均正答率は市の平均と同じで、県の平均よりも1.8ポイント、全国よりも1.5ポイント高い。 ○「連続する二つの3の倍数の和が9の倍数になるとは限らないことの説明を完成するために、予想が成り立たない例をあげ、その和を求める」問題の正答率は、全国、県より9.5ポイント高い。 ●「連続する三つの3の倍数の和が、9の倍数になることの説明を完成する」問題の正答率は、全国、県よりやや低い。	・具体例をあげて考えることはおおむねできているが、一般化して論理的に説明する力が不足しているため、授業で証明の記述の機会を増やしていく。
B 図形	平均正答率が市の平均よりも3.6ポイント、県の平均よりも1.7ポイント、全国よりも2.9ポイント低い。 ○「△ABCにおいて、∠Aの大きさが50°のときの頂点Aにおける外角の大きさを求める」問題の正答率は、全国とほぼ同じで、県より1.7ポイント高い。 ●「ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明することができるかどうかをみる」問題は、全国より3.5ポイント、県より3.9ポイント低い。	・基本的な証明問題を取り上げ、図形の見方や条件の記入の仕方、筋道を立てた証明の書き方など、一つ一つ丁寧に指導していく。また、証明問題に数多く取り組ませ、考え方に慣れるとともに自力解決や、筋道を立てる喜びを味わわせる。
C 関数	平均正答率が市の平均よりも6.3ポイント、県の平均よりも7.3ポイント、全国よりも6.6ポイント高い。 ○「事象に即して、グラフから必要な情報を読み取ることができるかどうかをみる」問題の正答率は、全国より11.3ポイント、県より10.9ポイント高い。 ●「一次関数 $y=6x+5$ について、 x の増加量が2のときの y の増加量を求める」問題の正答率は、全国より3.9ポイント、県より5.5ポイント高いものの、38.6%と低い。	・基本的な課題から取り組ませ、自力解決だけでなく友達と学び合う活動を取り入れながら関数の課題に慣れさせ、「表」「式」「グラフ」の見方やとらえ方を理解させる。
D データの活用	平均正答率は市の平均とほぼ同じで、県の平均よりも0.9ポイント、全国よりも3.1ポイント高い。 ○「相対度数の意味を理解しているかどうかをみる」問題の正答率は、全国より14.9ポイント、県より6.6ポイント高い。 ●「不確定な事象の起こりやすさの傾向を捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる」問題は、全国より3.4ポイント、県より3.8ポイント低い。	・基本的な技能は反復学習によりおおむね身に付いているが、出題内容の条件変更や複雑化への対応が不十分であるため、「条件整理の仕方」「考え方」などに重点を置いた授業を行う。

宇都宮市立河内中学校第3学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【理科】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	「エネルギー」を柱とする領域	58.1	54.5	56.1
	「粒子」を柱とする領域	65.0	62.2	61.7
	「生命」を柱とする領域	49.0	46.5	44.8
	「地球」を柱とする領域	36.4	36.7	37.3
観点	知識・技能	69.9	67.0	66.8
	思考・判断・表現	40.3	38.3	38.8
	主体的に学習に取り組む態度			

※中学理科の調査は、CBTで実施されている。

※CBTの調査では、生徒全員に同じ問題が出題されるのではなく、公開問題10問（共通問題6問、実施日により指定された問題4問）と、非公開問題が16問出題されている。生徒一人が解く問題数は26問である。

※公開問題22問（共通問題6問、実施日により異なる問題16問）の調査結果を集計した値である。

★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
「エネルギー」を柱とする領域	○回路に関する知識及び技能を活用して、結果を予想する問題について、市の平均よりも正答率が7.8ポイント高かった。 ●回路の電流・電圧と抵抗や熱量に関する知識及び技能について問う問題について、市や県の平均よりも正答率が0.8ポイント低かった。	日常的に行っている実験を中心とした科学的思考力の育成については一定の成果が得られている。しかし、市よりも正答率が高くとも課題であることに変わりはない。今後もじっくり予想を立てたり、考察を立てたりする必要がある。 また、熱量をはじめとした計算が絡む問題に対して苦手意識が強いため、反復練習することで理解を深めさせたい。
「粒子」を柱とする領域	○元素を記号であらわす知識を問う問題について、市の平均よりも正答率が10.9ポイント高かった。 ●身の回りの事象から生じた疑問や見いだした問題を解決するための課題を設定する問題について、県の平均よりも正答率が6.2ポイント低かった。	興味をもって実験に取り組んでいるものの、主体的に考えられる生徒は少ない。教科書の探究実験のように、自分たちで予想・計画し、実験に取り組ませる時間を設けたい。
「生命」を柱とする領域	○共通性と多様性を見方を働かせて比較し、分析・解釈する問題について、市の平均よりも正答率が4.5ポイント高かった。 ●生命を維持する働きに関する知識を問う問題について、正答率が36.0%と低かった。	生命の学習内容について、全体的に高い理解を示している。これを活かして、「何故そうなのか」「どこに共通部分があるのか」など、科学的なものの見方・考え方を養っていけるような授業づくりを心がけたい。
「地球」を柱とする領域	○気圧について科学的に探究し、分析・解釈する問題について、市の平均よりも正答率が5.1ポイント高かった。 ●時間的・空間的な見方を働かせて、地層の広がりや推測する問題について、市の平均よりも正答率が9.1ポイント低かった。	主に地層や岩石についての知識や技能が欠如していることがわかる。魅力が伝わるよう、現物を利用したり、身の回りに生きる知識を伝えたりするなどして、生徒が意欲的に学習に取り組めるような工夫をしていきたい。

宇都宮市立河内中学校 第3学年 生徒質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

生活習慣に関する質問について
○朝食をきちんと食べたり、家庭内にて会話するといった家庭環境が恵まれている様子がうかがえる。
●寝る時間がばらばらで朝決まった時間に起きられず規則正しい生活を送られていない傾向がうかがえる。

学校生活に関して
○いじめは、どんな理由があってもしてはいけないと理解したうえで人が困っている時、進んで手助けしていると回答した生徒が県や全国平均を上回っており、「人の役に立つ人間になりたいと思いますか。」の質問についても県や全国平均を上回っているなど前向きな気持ちで生活を送ろうと考えている生徒が多いことがうかがえる。
○自己肯定感を感じている生徒の割合が県や全国平均を大きく上回っており、学校や家庭において自身の良いところを認めてもらっている実感があることがうかがえる。そのことが自己肯定感の向上につながっているのではないかとと思われる。
○自己肯定感を持って「将来の夢や目標を持っていますか。」の質問に、当てはまると回答した生徒が県や全国平均を上回っていることにつながっているのではないかとと思われる。
●「学校に行くのは楽しいと思いますか。」の質問に、当てはまると回答した生徒は48.0%であり、県を0.8ポイント下回っており、全国を2.4ポイント上回っている。
○「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか。」の質問に、当てはまると回答した生徒は55.0%であり、県を6.5ポイント、全国を8.6ポイント上回っている。
○「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分るまで教えてくれていると思いますか」の質問に、肯定的に回答をした生徒は90.0%であり、県を1.7ポイント、全国を5.7ポイント上回っている。
一以上のことから、生徒自身の自己肯定感が高く、教職員にも認められているとの思いがあることがわかる。また、幸福度も高いことがうかがえる。

学習面について
●「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか。」の質問に、当てはまると回答した生徒は32.0%であり、県を2.5ポイント、全国を4.6ポイント上回っているものの否定的回答が27.0%であることから、生徒間の学びの力に差が出ていることがうかがえる。
○国語について学習したことは、将来、社会に出たときに役に立ちますかという質問について当てはまると回答した生徒が県や全国平均を大きく上回っており、学習内容の意義や活用の場面を理解していることがうかがえる。
●数学について学習したことは、将来、社会に出たときに役に立ちますかという質問について当てはまると回答した生徒が県や全国平均を下回っており、数学を苦手としている生徒の割合が県や全国平均を上回っている状況である。今後、さらに実生活の中での数学の必要性や考え方などについて触れながら授業を行っていく必要があるのではないかとと思われる。
○理科について学習したことは、将来、社会に出たときに役に立ちますかという質問について肯定的に回答した生徒が県や全国平均を上回っており、将来、理科や科学技術に関係する職業に就きたいと思っている生徒の割合も全国平均を上回っている。実生活の中で実際に学習したことを活用したりする経験をおして理科に高い興味・関心を持って生活していることがうかがえる。

地域との関わり
○「これまでの生活の中で、自然の中で遊ぶことや自然観察をすることがありましたか。」、「地域の大人に、授業や放課後などで勉強やスポーツ、体験活動に関わってもらったり、一緒に遊んでもらったりすることがありますか。」、「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか。」の質問に、肯定的な回答が県や全国平均を大幅に上回っている。
一以上のことから生徒が恵まれた地域環境の中で生活しており、地域の方々とのふれ合いの中で地域貢献の気持ちが育ってきている状況が確認ができる。
まとめとして、本校3年生は規則正しい生活を送っており、一人一人の良さを認める環境も働き、自己肯定感が高く幸福度も高いことから、概ね精神的に安定した生活を送れていると考えられる。精神的安定が、学習意欲を高めることにつながっている。今後は携帯端末の適切な利用など家庭と連携を取って引き続き規則正しい生活習慣を身につけさせていきたい。

宇都宮市立河内中学校（第3学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
考える力を育む言語活動の充実	・主体的・対話的で深い学びのある授業実践 ・各教科や総合的な学習の時間に課題解決的な学習を進める。 ・言語に対する関心や理解を高め、言語環境を整えるとともに、各教科での言語活動を充実させる。そのためのツールとしてICT機器の利用や活用に努める。	・「即興で自分の考えや気持ちなどを英語で伝え合う活動が行われていたか。」に対し、当てはまると回答した生徒が44.8%と県を9.8ポイント、全国を16.7ポイントと高い。 ・「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことなどを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか。」の肯定的回答が97.1%である。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
「新聞を読んでいますか」の質問に対し、ほぼ毎日読んでいるが1.9%、週に1～3回程度が3.8%、月に1～3回程度が17.1%、ほとんど又は全く読まないが76.2%であった。新聞を読むという習慣がほぼないに等しい状況にある。	新聞への興味・関心を高めるための工夫をする。	・各教科(特に社会科や総合的な学習の時間)において、意識的に新聞を活用した授業を行う。 ・図書委員が中心となり新聞コンテストの掲示物や新聞を壁面に掲示するなど、学校司書が新聞へ慣れ親しめるよう積極的に活動を行っている。その取組を全校生徒に周知し、新聞への興味・関心を高められるようにする。